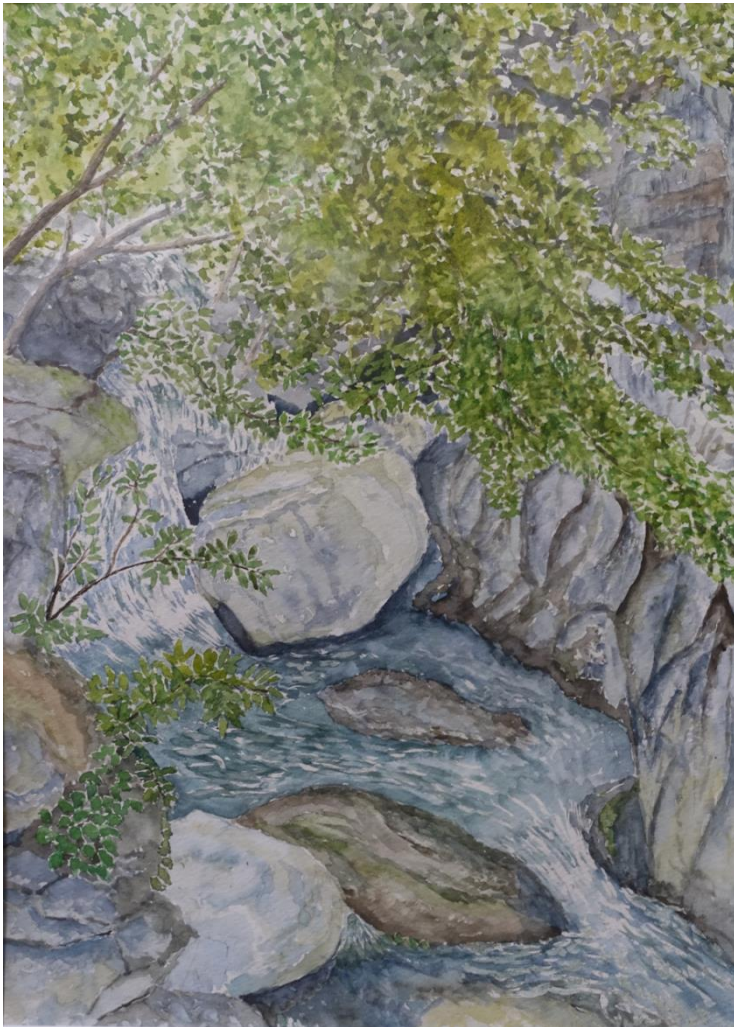




黒田重雄 「溪流新緑」(F4)・水彩

作者コメント (黒田)

東京都の山奥、日原鍾乳洞横にある溪流を描きました。青梅の自宅から行っても、バスが1時間に一本程度なので1時間半程度かかりますが自然溢れた山里の奥にあります。岩肌の質感、水の流れ、新緑の存在感など、どう描けば良いのか迷う素材でした。

喜田コメント

近くにこのような自然があるのですね。この作品は黒田さんの最近のベスト3に入る作品です。山奥の深淵とした静けさの中に清流の音が聴こえてきます。一筆一筆、丁寧に心を込めて描かれましたね。アドバイスとしては、
① 上部の新緑の主張がもう少し欲しい。
② 岩・清流・新緑の3者が響き合うように明暗をもう少し強調する。くらいです。

作者コメント (月川)

ある本に可愛い教会があったので、モチーフに使用しました。横に花瓶をおいてシクラメンの花を入れようと思いましたが、可愛い教会に合わせて花瓶を赤い靴にしました。赤いシクラメンは、赤ばかりになるから薄い色にしました。幼稚な作品になりましたが昔を思い出してください。

喜田コメント

小さな教会・サンタの赤い靴・4人の子供、全てがかわいい。この作品の最も優れた点は「物語性がある」ということです。観る者にいろいろ物語を想像させます。小さな作品なのに絵画性もあります。特に「シクラメン」の表現は秀逸です。ちょっと曲がった茎が語りかけられます。雪の白い背景もよい。



月川りき江 「サンタの鈴の音が聞こえる」(21cmx18cm)・ちぎり絵

作者コメント（竹前）

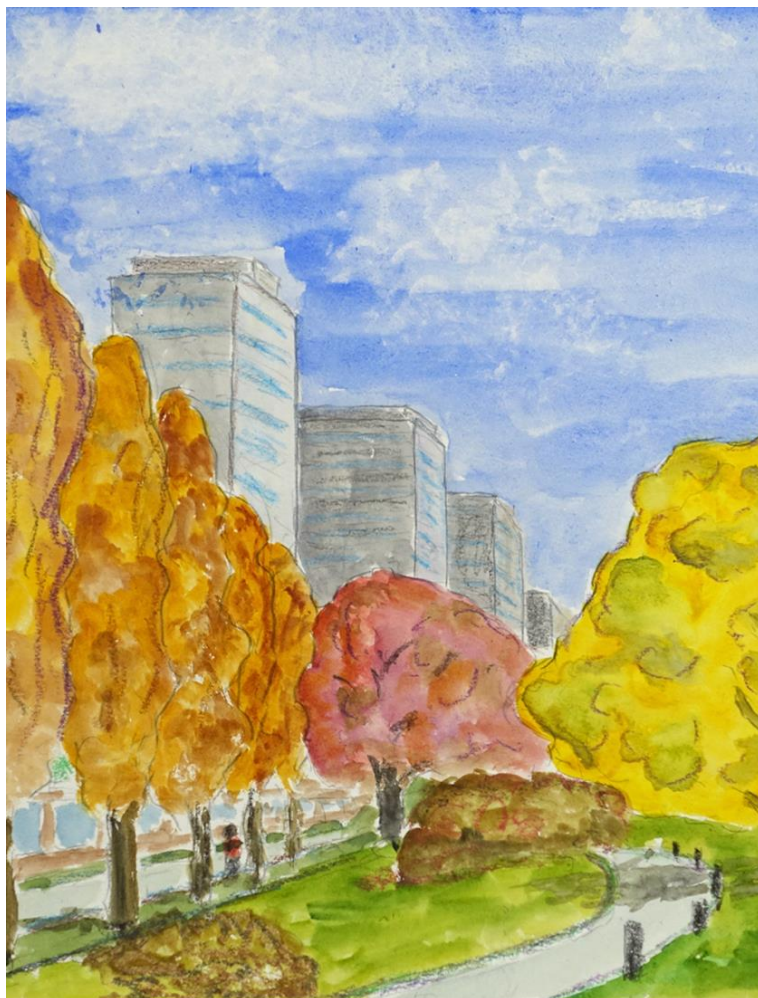
普段、何気なく歩いている街の中にも、気持ちを切り替えて探して見ると、自然があり季節があり、違った風景が見えてきます。

喜田コメント

須坂の「田舎の秋」もいいですが、「東京の秋」も捨てたものではありません。竹前さんの作品は、のびのびと描き、絵が大きいことが最も良い点です。対象物を「かたまり」で捉え、大きく表現する、チマチマ描かないことが素晴らしいです。

紅葉した木々は私たちに秋の到来を教えてくれますが、この作品は空の表情で秋を知ることが出来ます。

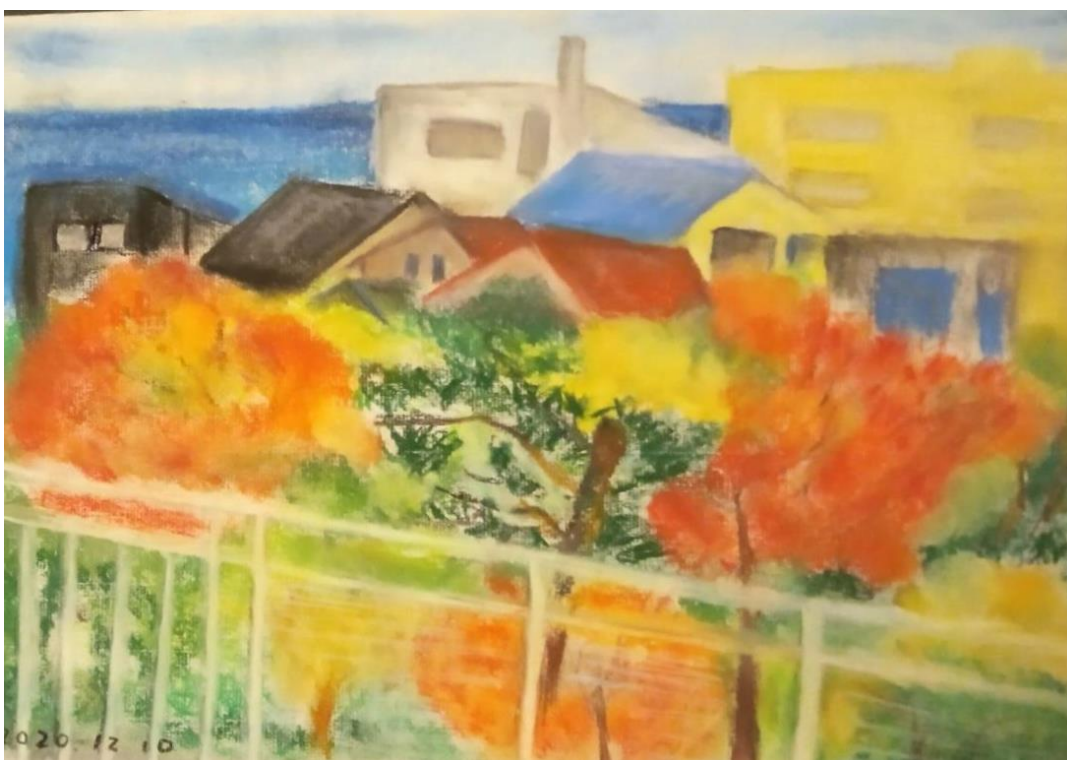
おおらかで、とても気持ちの良い絵です。竹前さんはヘルマン・ヘッセの影響を強く受けていて、このまま描きすすめてよいと思います。



竹前義博「都会の秋」(F6)・水彩

作者のコメント（遠矢）

隣の 500 坪の庭をわが家のベランダから描きました。今年の紅葉は台風もなかったもので、素晴らしかった。遠近が下手で、遠くの家をもう少し小さく描くべきでした。



遠矢慶子「ベランダからの眺め」(45cmx32cm)・パステル

喜田コメント

自宅の窓からこんな美しい風景、うらやましい。遠矢さんの絵は説明的でなく、感覚と感動で描いているのが最も良い点で見習うべき点です。紅葉の中にある 1 本の（松）の存在が何かを主張しているようです。確かに遠近の遠い海などはもっと薄く描いた方がよいと思う。

作者コメント（筒井）

かつて経験したことのない慌ただしい一年が過ぎ、年越しの節目で、ひと休みしました。来年は落ち着いて絵が描きたいですね。

喜田コメント

筒井さんらしいエネルギー密度の高い絵です。ベースの濃い緑は大地を連想させ、遠くの山々をイメージさせて素晴らしい。偉大なニワトリの存在感が鉛筆と消しゴムにより強くなった。



筒井隆一「ひと休み」(F6)・水彩

作者コメント（武智）

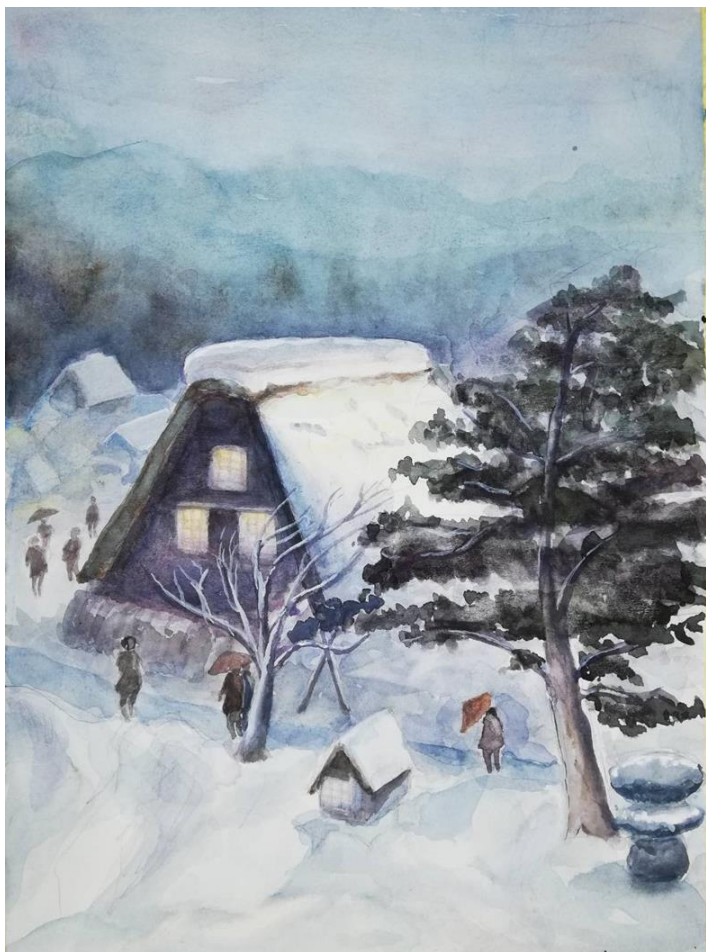
5年前に知人から頂いたカクテルセット。明るいブルーのケースと瓶やシェーカーが可愛かったので保存していました。それを今回描いてみました。お天気がよかったので窓から入る日差しでケースや瓶が輝きました。瓶の美しさを活かすために、バックを暗く描きました。



武智康子「カクテルセット」(F4)・水彩

喜田コメント

この作品には素朴な面白さがあって好感が持てます。瓶の色と形、ラベルの形、光った部分と影の部分、表現がとても面白いです。武智さんの個性でしょう。箱の中の陰影もよい。構図的には ①左右がシンメトリーになってしまいました。開いた箱の中心線、ワイングラスの位置などを左右にずらせて、構図のバランスを工夫すればもっと面白くなります。



若林哲史「暮れ泥む雪の合掌造り」(F4)・水彩

作者コメント (若林)

コロナ籠り直前に訪ねた高山温泉と合掌造りを思い出して描いてみました。

喜田コメント

雪に覆われた白川郷・合掌造りの村。本当に上手に描けています。近景・中景・遠景の描き方も良く、寒々しい絵ですが、傘をさして雪道を歩く村人がこの絵に動きと温かみを与えました。添景人物の描き方は小さくてもそれなりの表情があって、とても上手ですね。

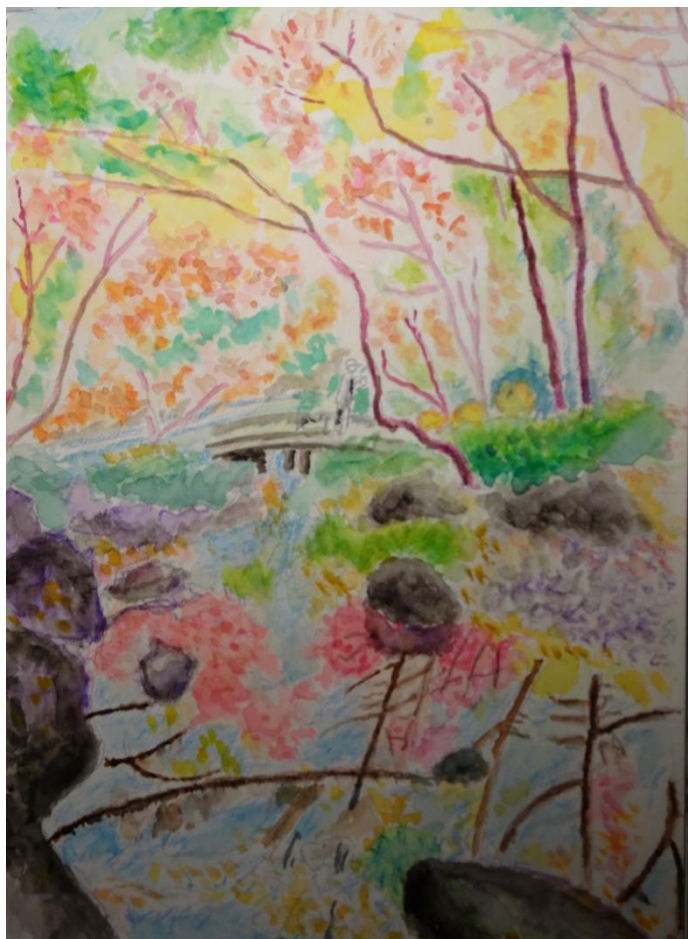
雪景色を描くのは難しいです。「雪と桜は陰で描け」と言われます。うすい灰色やブルーの影を描くことによって、雪を表現するということです。若林さんは陰で雪を描いています。若林さんは100枚も1000枚も描いていけば「若林さんの絵」が確立します。若林さんの欠点は、なかなか筆が進まないことですね(笑) 真の芸術家は気が乗らないと、筆が動かないといえます。若林さんはこれなのでしょうか。

作者コメント (井上)

別荘地萩窪と言われた、昭和初期建築の大田黒元雄氏屋敷跡の公園。地上と水に映る紅葉がうまく描き分けられたか？

喜田コメント

私は昔「絵は見たものを描くのではなく、感じたものを描け」と言われました。この作品は、井上さんが感じた感動が十分表現されていて心地よいです。作者コメントにある、「地上と水に映る紅葉がうまく描き分けられたか」という問題提起に対して、「うまく描き分けられていない」と答えます。まず、水が描けていません。しかし、あまり上手に水を描く则该絵の面白さは失われます。そして、地上の紅葉と水の中の紅葉と2倍の紅葉を見た感動が伝わってきて、観る者を感動させます。井上さんは「見た感動を素直に描いているから素晴らしいです」



井上清彦「王朝絵巻の冬紅葉」(F6)・水彩



岡田理子「ミュシャのダンス(模写)」(白磁に模写)

作者コメント (岡田)

娘がダンスに夢中なので「ミュシャのダンス」を原画にして娘にプレゼントするために白磁(ポーセリン)に絵付けしました。
顔も知らず知らずのうちに娘に似たようです。



「ミュシャのダンス」原画(参考)

喜田コメント

岡田さんはこのような作品を描けば天才的です。何時も教室で描く「水彩のにじみ」を使って、大胆な色彩で「形を描かない表現法」に驚かされますが、前回見せていただいた「鸚鵡と娘」「石膏デッサン」など繊細な線で描く技術は天才的です。この作品は「ミュシャ」の模写ですが、模写は描画技術を磨く良い方法です。



喜田祐三「私の住む街」(東府中の秋)(F1)・水性色鉛筆

作者コメント (喜田)

コロナによるステイホームを利用して、散歩が習慣になりました。散歩には「スケッチブックと色鉛筆」を携帯します。
今年の秋は好天の日が多くて、散歩がとても楽しいです。
この作品は、私が住む街・府中市(京王線東府中駅)の踏切から東京競馬場方向をみて、一瞬の秋を感じて描きました。

コロナがひどくて、教室に集まって描けません。「あとリエー丁」では自宅で描いた作品をメールで集めてホームページに掲載する、いわゆる「Web 作品展」をやっています。教室にみんなが集まって「決まったモチーフ」を描くのではなく、自宅で描いた自由作品を持ち寄って評価するのも、有意義だと思います。(喜田)

以上